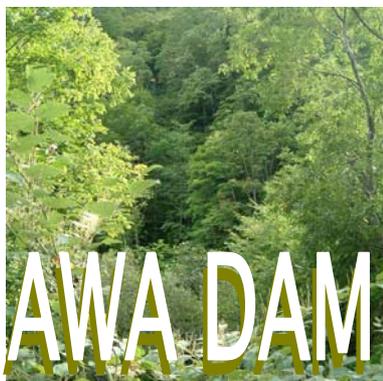




桂沢ダム
水源地域ビジョン
提言書



KATSURAZAWA DAM VISION

「桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議」
平成18年3月

提 言 に 際 し て

アイヌ語で「イ・クシ・ウン・ペット」（向こう側にある川）と呼ばれていた幾春別川。現在の流路延長は 58.7Km であり、その流れは幾春別岳や幌向岳から発しています。

昭和 32 年満を持して「桂沢ダム」が北海道で最初の多目的ダムとして姿を現しました。今日まで水源地域である三笠市流域の発展を支え、産業や人々（住民）を災害から守る働きをしてきました。

しかし社会構造が大きく様変わりをしようとしている 21 世紀を迎え、水源地域の社会背景や桂沢ダムに求められる機能や役割も変わってきたと思います。

私たちはこのような変化を踏まえ、私たち三笠市と下流域の町の住民が、主体的に協力をしながら、実現可能な地域の活性化のあり方を話し合いました。これからの時代においては民・官がお互いの出来る範囲で積極的に協力し、桂沢ダムや水源地域の資源を住民の生きる活力となるように利用していくことで、郷土愛に満ちた将来が実現すると信じます。

私たちはこうした信念のもと、桂沢湖とその周辺地域のあるべき姿を見据え、水源地域ビジョンとしての行動計画を取りまとめました。

本行動計画が、地域住民と関係機関の連携のもと、地域の自立的・持続的な発展のために有効に活用されることを期待します。

平成 18 年 3 月

桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議

桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議 委員名簿

●委員

板谷 昭子	三笠市民（桂沢トムソーヤ）
井上 まさ子	商工会 女性部長
大坂 幹雄	電源開発株式会社 桂沢発電所
太田口 博夫	石狩川開発建設部 幾春別川ダム建設事業所副長（第3～7回）
折笠 弘忠	商工会 青年部長
柿添 尚子	三笠市民（桂沢トムソーヤ）
駒田 賢	森林インストラクター
嵯峨 義輝	幾春別川をよくする市民の会 会長
定塚 孝二	NPO法人 山のない北村の輝き（第5回）
島 一雄	NPO法人 山のない北村の輝き
高篠 和憲	三笠の湖・川・緑を愛する会 会長
高橋 高吉	石狩川開発建設部 桂沢ダム管理所前所長（第1～2回）
田中 史雄	石狩川開発建設部 幾春別川ダム建設事業所前副長（第1～2回）
寺前 輝義	三笠の湖・川・緑を愛する会 副会長
丹羽 真一	桂沢水道企業団 企業局管理課長
橋本 拓	NPO法人 山のない北村の輝き
藤田 満士	石狩川開発建設部 桂沢ダム管理所長（第3～7回）
藤原 寛一	三笠市立博物館化石部会

●事務調整会議

伊東 真一	三笠市役所 経済建設部建設管理課
宇佐美 彰	石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所計画課長（委員も兼任）
杉 澁 則幸	三笠市役所 経済建設部商工観光課長（委員も兼任）
高田 進	三笠市役所 経済建設部建設管理課建設管理係長
高橋 好明	空知森林管理署 前流域管理調整官
富樫 誠	三笠市役所 企画総務部企画振興課長（委員も兼任）
中村 正法	三笠市 教育委員会学校教育課長
松本 哲宜	三笠市役所 企画総務部企画振興課前課長
水谷 裕一	石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所前計画課長
山川 直樹	三笠市役所 企画総務部企画振興課企画係長

（五十音順、敬称略）

●事務局

石狩川開発建設部	桂沢ダム管理所
石狩川開発建設部	幾春別川ダム建設事業所

1 水源地域ビジョンとは ＊ ＊ ＊

国内の水源地域において、過去に実施された多くの施策によって、地域の活性化に寄与した事例も多くあります。しかし水源地域において顕著な過疎化と高齢化、それとともに山林の荒廃など社会状況の変化への対応力不足を主要因として、社会的ニーズの変化に合わない施設、施設のマネジメント能力不足、PRの不足、地域住民の参加意識の低下等、多くの問題が生じてきています。

「水源地域ビジョン」とは、これら諸問題を踏まえ、ダムやダム湖及び周辺環境、既存施設を活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のために、水源地域の自治体や住民等が、ダム事業者や関係団体等と共同で策定する総合的な水源地域活性化のための「行動計画」です。

近年では、ダムに求められていた治水、利水機能の充実に加え、流域環境に果たす水源地域の重要性が叫ばれています。その中での役割を拡充するとともに、自然豊かな水辺環境や伝統的な地域文化、資産等を国民が広く知り、利用できるよう、ハードとソフト両面の総合的な整備を実施し、バランスの取れた地域の発展を図ることが期待されています。



桂沢湖



現地見学会のようす





ビジョン策定にあたって



2-1. 桂沢ダム水源地域ビジョンの背景

現在、桂沢ダムを嵩上げする新桂沢ダムの建設と、三笠ぽんべつダムを新設する幾春別川総合開発事業が進んでいます。そのため桂沢ダム水源地域ビジョンでは、現在の桂沢ダムと新桂沢ダム、三笠ぽんべつダムを考慮した行動計画とすることにしました。

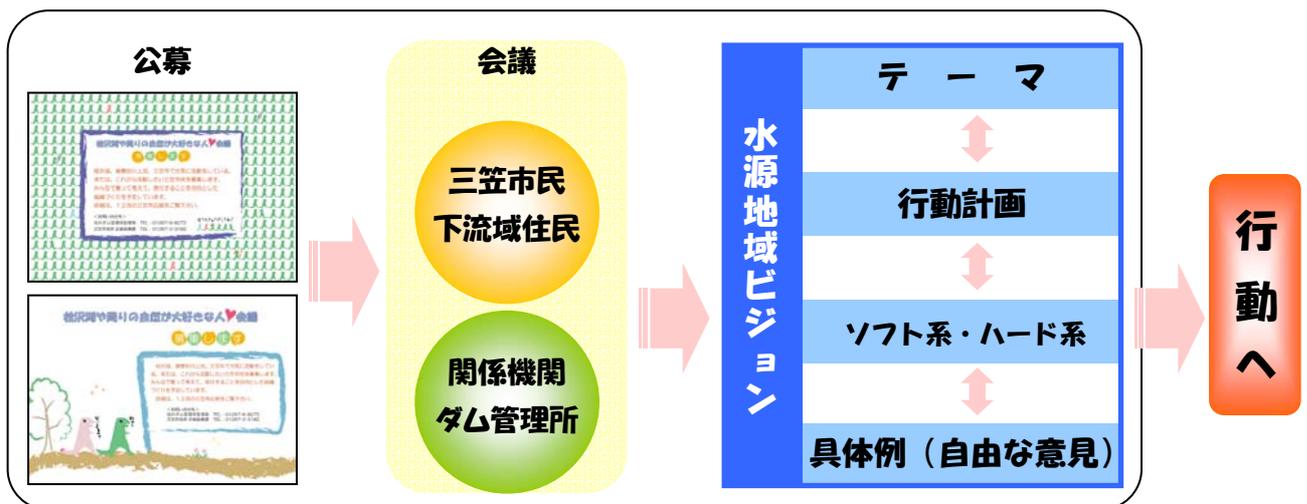
また、各ダムの建設、完成により周辺状況も変化すると考えられますが、この行動計画は必要に応じて見直しをしながら、常に社会的なニーズや活動を行っていく住民の声を反映させることを前提とします。

2-2. 住民参加型の行動計画づくり

三笠市や岩見沢市、北村では桂沢湖や周辺を利用している既存住民団体が多いことから、「桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議」という名称で一般公募を行い、地域住民とダム関係者・関係行政機関・関係団体が集って、平成17年1月から行った7回の会議の中で、行動計画である「桂沢ダム水源地域ビジョン」をまとめました。

この会議は、多様な立場の参加者が、平等な立場で十分に意見を出せるようにワークショップ形式としたため、地域を取り巻く問題点と現状を十分に把握し、より効果的な地域の活性化となるアイデア、意見、希望が多数出されました。これらを「テーマ」「行動計画（ソフト・ハード）」「大エリア」「小エリアごとの具体例」という構成で整理し、行動計画にしました。

水源地域ビジョン策定の流れ



※ 岩見沢市、栗沢町、北村は、平成18年3月27日に合併し岩見沢市となります。

会議(ワークショップ)の流れ



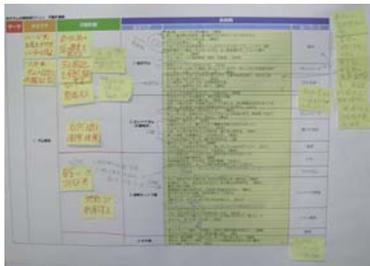
第1回会議
(夢・希望・問題点
などの抽出)



第2回会議
(希望・問題点、その
解決策などのまとめ)



第3回会議
(問題点の共有と
見学会ルート選定)



第5回会議
(行動計画づくり)



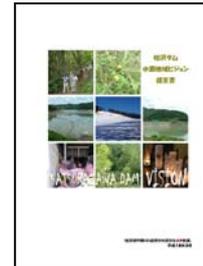
第4回会議(見学会)のようす



第6回会議
(テーマ、行動計画整理)



第7回会議
(提言書完成)



3 桂沢ダム水源地域ビジョン行動計画

テーマ	行動計画	大エリア	小エリアごとの具体例		
			小エリア <small>●は、委員の関心度レベルを示します。</small>	具体例 実行度チェック	
桂沢の自然と三笠の歴史の再発見	<p>☆私たちは以下の行動をします。</p> <p><ハード系></p> <ul style="list-style-type: none"> * 既存施設を改善し利用しやすくする工夫をします。 * 新しい場所や資源を活かした施設づくりを考えます。 * 施設をつなげて魅力あるエリアづくりを考えます。 <p><ソフト系></p> <ul style="list-style-type: none"> * ダムの特徴を活かす活動をします。 * 地域の資源を活かした新たな体験プログラムを作ります。 * 地元の人を楽しめるプログラムを増やします。 * 地域活性化のための人材育成を進めます。 	ダムと湖(畔)	1. 桂沢ダム(新桂沢ダム) (●●●●●●●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型駐車場やトイレ及びコンビニ、レストラン、物産館のある新しい施設をダム湖周辺に実現しよう。 ・ダム湖一周コースの道路整備をし、サイクリングとホーストレッキングをしよう。 ・環境放流の活用とダム下公園の整備を考えよう。 ・新ダムの堤体壁面はみんなで考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・壁面にインパクトのあるものを(新ダムを芸術的なダムにする)。 ・景観に配慮した新しいダム。 ・工事が始まる前に、今のダムを子ども達に見せよう。 ・北海道では第1号の多目的なダムである桂沢ダムの歴史や役割を体験させよう(ダム資料館)。 ・流木の活用を考えよう(流木チップなど)。 	●●●●●●●●
			2. 三笠ぼんべつダム(計画地点) (●)	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の活動を妨げないボンベツ川を考えよう。 ・新ダムの堤体壁面はみんなで考えよう(景観に配慮した新しいダム)。 ・魚や化石にも優しい新しいダムのPRを考えていこう。 	●●●●●●●●
			3. 湖畔キャンプ場 + その他 (●●●●●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道と標識の整備を考えよう。 ・PRを充実しよう(冬の遊び、ワカサギ釣り、スノーシュー、雪中植林)。 ・湖面を含めたキャンプ場の多様な利用を考えよう。 ・既存イベント(トムソーヤなど)の新展開をみんなで考え、みんなで実施しよう。 ・外灯の設置や暖房器具の貸出を検討しよう。 ・ゴミ対策や汚水対策、トイレ美化対策。移設先ではバイオトイレの採用を考えよう。 ・近くの場所の利活用を考えよう(原石山、横坑、転流工《体験観光、子どもにも見学、ダム祭りでの公開、貯蔵庫、湧水》)。 	●●●●●●●●
			1. 桂沢国設スキー場 (●)	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー場の通年利用を考えよう(星の観察、夏の宿泊施設)。 ・パークゴルフ場の設置を考えよう。 ・クロスカントリースキーコースの設置を考えよう。 ・わかりやすい案内板を考えよう。 	●●●●●●●●
			2. みかさ遊園 (●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい動物園の設置を考えよう。 ・子どもが自然観察等ができる、沢水を使った池の設置(沢水をジャブジャブ池へ)を考えよう。 ・利用促進の為に改善(キャンプ場の表示、トイレ、安全なスライダー)。 ・利用促進の為に新施設(下水処理施設設置、電源設備、ドッグラン、パンジー)。 ・ソフト面の開発(PR方法、使用料検討、イベント)。 	●●●●●●●●
			3. サイクリングロード + 三笠市立博物館 (●●●●●●●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロード(野史博物館)のみかさ遊園まで延長して化石博物館とつなぎ、PRをしよう。 ・野史博物館での案内人を育成しよう。 ・化石発掘プログラムのPRと充実をしよう。 ・川や川沿いの利用(ろうそくによる川のライトアップ、鮭の産卵床など湧水利用、クレソン利用、神仙閣の歴史)を考えよう。 	●●●●●●●●
		4. 山・森林 (●●●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・森林での活動プログラムを作ろう。 ・登山やハイキング、カヌーなどの情報発信をしよう。 ・湖を望める場所への登山道整備(松本平、年配者向け森林浴、幾春別岳の登山道復活、新桂沢ダムと三笠ぼんべつダムの両方が見える登山道新設など)を考えよう。 	●●●●●●●●	
		5. 川 (●●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・河川清掃活動と環境教育をつなげよう。 ・水辺の楽校をもっと活用しよう。 ・河川環境を活かした地域の活性化をはかろう。 	●●●●●●●●	
		6. その他 (●●●●●●●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクターや説明員の育成=語り育成をしよう。 ・西桂沢公園でのイベントを考えよう(紅葉の時など)。 ・学校・みかさ楽校・三笠森水遊学舎・みかさファンクラブ(町づくりWS)との連携を考えよう。 ・インターネットを利用して知名度アップやPR拡大を考よう。 ・高速通信、携帯電話エリアの充実を求めよう。 ・高齢社会と水源地の関わりを考えよう。 ・地域内外の交流を通じて人材育成や魅力再発見をしよう。 ・石炭の歴史(産業遺産)を見せよう。 ・達布山展望台周辺の資源のPRと活用を考えよう。 	●●●●●●●●	
		6. その他 (●●●●●●●●)	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクターや説明員の育成=語り育成をしよう。 ・西桂沢公園でのイベントを考えよう(紅葉の時など)。 ・学校・みかさ楽校・三笠森水遊学舎・みかさファンクラブ(町づくりWS)との連携を考えよう。 ・インターネットを利用して知名度アップやPR拡大を考よう。 ・高速通信、携帯電話エリアの充実を求めよう。 ・高齢社会と水源地の関わりを考えよう。 ・地域内外の交流を通じて人材育成や魅力再発見をしよう。 ・石炭の歴史(産業遺産)を見せよう。 ・達布山展望台周辺の資源のPRと活用を考えよう。 	●●●●●●●●	

※ 小エリアの●は、第6回会議で実施した「エリアに対する客観的な関心度」を示し、実行度チェックの●は、第7回会議で実施した「自分でやってみたい、参加してみたい」という委員の気持ちを示したものです。

テーマ

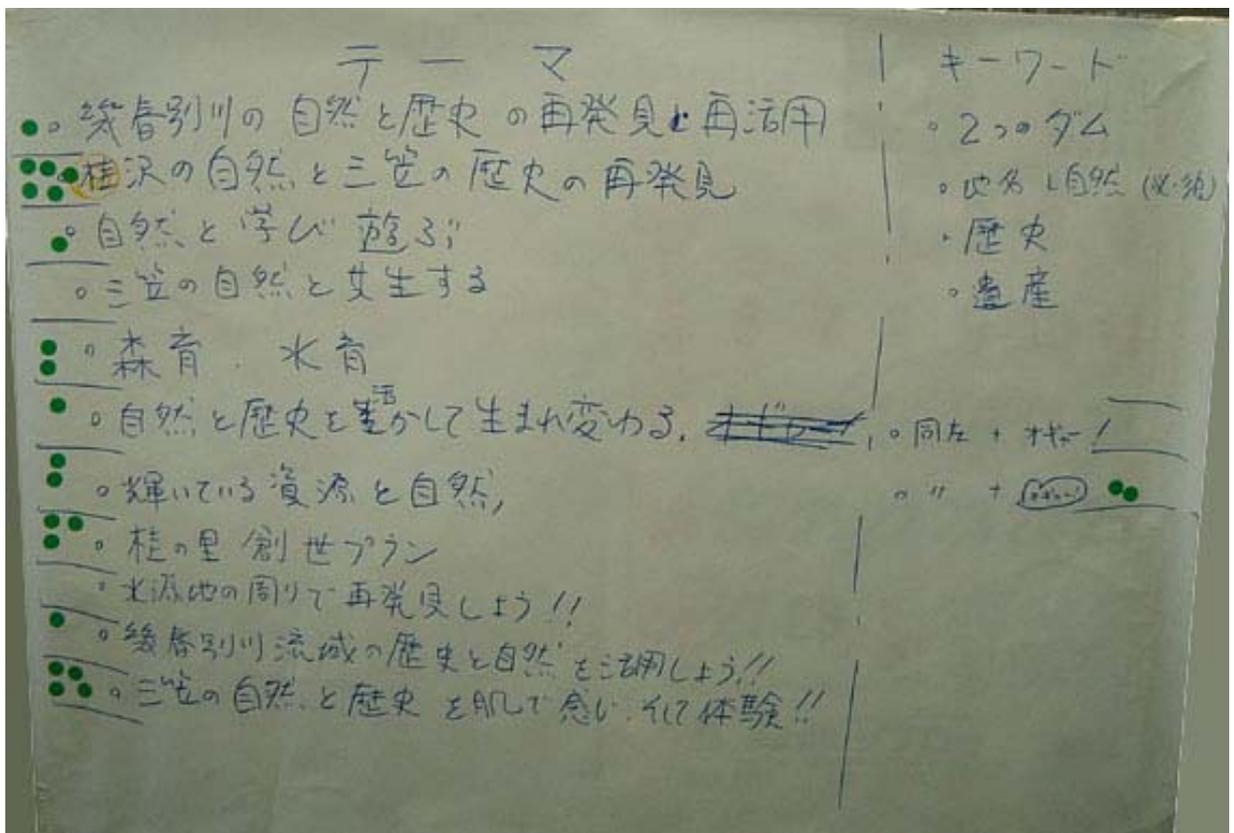
「桂沢の自然と三笠の歴史の再発見」

このテーマは、会議参加者から寄せられた「テーマ」の中から選ばれました。桂沢周辺の豊かな自然を地域の人が大切に思い、見つめなおして共存していきたいという希望が込められています。

また、昭和の北海道の発展を支え続けた三笠市の炭鉱の歴史は、かけがえのない地域の財産であるという認識は参加者全員に共通しており、化石も多く見つかることから、三笠の歴史を再発見していきたいという希望が「テーマ」になりました。



第6回会議の様子



第6回会議のワークシート（テーマの投票）

行動計画

行動計画はソフト系・ハード系に分けて整理しました。

ソフト系の行動計画

- ・ **ダムの特徴を活かす活動をします。**
- ・ **地域の資源を活かした新たな体験プログラムを作ります。**
- ・ **地元の人を楽しめるプログラムを増やします。**
- ・ **地域活性のための人材育成を進めます。**

ハード系の行動計画

- ・ **既存施設を改善し利用しやすくする工夫をします。**
- ・ **新しい場所や資源を活かした施設づくりを考えます。**
- ・ **施設をつなげて魅力あるエリアづくりを考えます。**

これら行動計画は数回行われたワークショップの中で、委員から出された意見や問題点、それに対する解決方法などをまとめたものになっています。実行段階において受け入れやすいよう、わかりやすくシンプルな表現とし、実行段階において柔軟で発展的な活動が行えるようにしてあります。

また、新桂沢ダム・三笠ぼんべつダムの施工時、完成時を踏まえ、将来的にも活用しやすい行動計画になるよう配慮しました。

上表のようなソフト・ハードの行動計画が作成された背景には、委員の感じている地域施設の不統一感、新ダムに対する期待、ハードを活かすためにはソフトが重要ということがありました。ハード系行動計画は、住民主体では現実的なものにはなりません、関係行政機関と話し合っ一緒に考えて行くという方向性を示しました。住民参加の機会が多くもたれることを期待します。

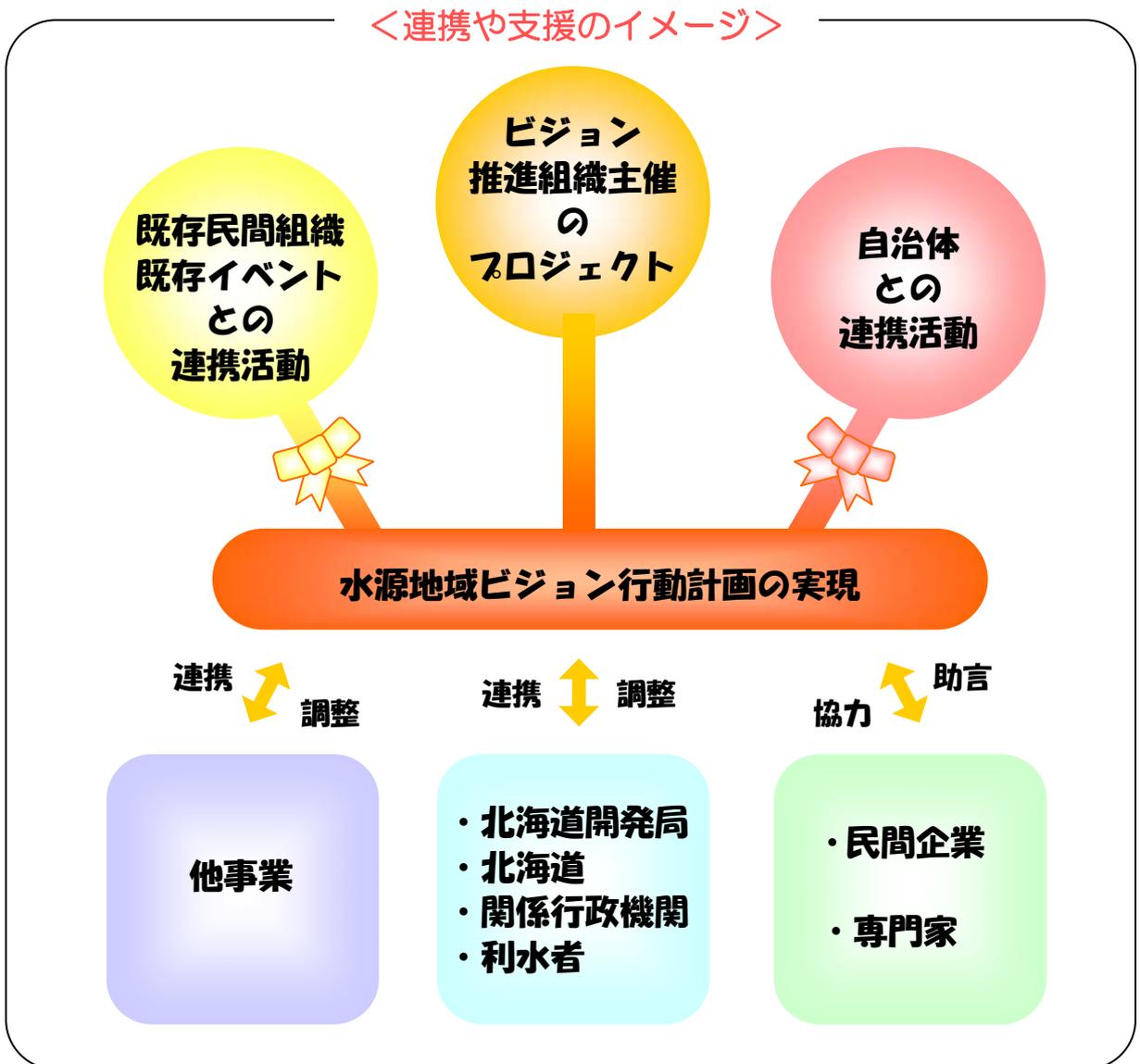
4 ビジョンの推進に向けて ＊ ＊ ＊

会議によって私たちが作成した行動計画は、地域住民や関係行政機関等が何に向かって進むべきかという方向を示したものです。この行動計画を実行し、実現することが水源地域ビジョンの本当の目的です。

そのため、行動計画を実行するためには、推進にあたっての課題を明確にし、活動に反映させていくことが必要です。

<行動計画の実現に向けた連携の必要性>

この行動計画が実現する為には、行政の力だけではなく地域の住民が主体となった推進組織や行動が必要ですが、三笠市や岩見沢市、北村には既に地域の活性化のために活動を行っている住民団体があります。水源地域ビジョンとの関わりを深め、ダム管理所や自治体などとの連携や支援のあり方を考えながら、三笠市や下流域を含む水源地域の活性化という最終到達点に向かっていく協働作業が必要と考えられます。



<今後の課題>

1) 継続的な支援措置

住民主体の推進組織となる場合、自主財源や人材は乏しく、活動資金及び人的支援が欠かせない要件となることが予想されます。特に水源地域ビジョンを推進するための大きな原動力は財源と人材の確保であり、以下の3つの手法が考えられます。

- ① 北海道開発局及び関係行政機関の支援
 - ・ 財政的支援及び人的支援を得ることです。
- ② 活動収入
 - ・ イベントや事業プロジェクトの中から参加費や事業収益を獲得することです。
- ③ 助成金の獲得
 - ・ 地域活動や環境保全活動に対し、公的及び私的助成金を得ることができます。

上記3つの実現と持続には多くの努力が必要となりますが、民・官の協力体制を強化し、理解し合いながら展開していくことを期待します。

2) 推進組織の発展

推進組織を発展させていくためには、組織基盤が安定しなければなりません。基盤を安定させるためには、組織の法人格への移行などが考えられます。例えば、NPO法人、財団法人などの設立等、今後の推移を見ながら組織形態を検討していく必要があります。

ただし先を急ぐのではなく、実力に合った組織作りや、スケジュールが重要となります。社会情勢を見ながら柔軟な姿勢を保つことが必要と考えます。